



茨城大学
大学院

修士課程

人文社会科学研究科



文化科学専攻

人間文化コース
コミュニケーションコース



社会科学専攻

法学・行政学コース
経済学・経営学コース
地域研究・社会学コース
地域政策研究(社会人)コース

Graduate School of Humanities and Social Sciences
Ibaraki University

研 究 科 長 挨 拶

人文社会科学研究科長 佐川 泰弘

日本で少子化や高齢化、人口減少が問題だと言われ始めて久しいですが、これまでの政府の予想以上に高齢者も急速に減り、人がいなくなる地域が大都市以外で多数発生するというショッキングな予測と、思い切った対策を大至急講ずるべきとの提案が2014年5月に発表されました。それに呼応して、現在「地方創生」の取り組みが国レベルでも、地方レベルでも展開されつつあります。

茨城大学大学院人文社会科学研究科は「文化科学専攻」と「社会科学専攻」の2専攻（修士課程）を備え、地域課題も意識しながら研究と教育を行ってきました。文化科学専攻は、人間科学、歴史・文化遺産、文芸・思想、言語科学の研究を行う「人間文化コース」と異文化コミュニケーションとメディア文化を研究する「コミュニケーションコース」の2つのコースから成っています。社会科学専攻は、法学・行政学コース、経済学・経営学コース、地域研究・社会学コース、地域政策研究（社会人）コースの4つのコースから成ります。茨城大学大学院のカリキュラムは、いずれも専門深化とともに幅広さ、俯瞰性も追求しています。そのため、当研究科では、学識と教養を学ぶための「基盤養成科目」、専門分野に関する高度な知識を修得するための「研究推進科目」、さらにインターシップや外国語科目などの「キャリア支援科目」を置いています。

また、副専攻として、コミュニティ・マネージャー養成プログラムおよび人文社会系サステナビリティ学プログラムの2つの専攻横断型の教育プログラムを提供しています。人文科学研究科では皆様の幅広い関心に対応して、人文科学、社会科学の多様な専門分野を用意しています。また、一般選抜のみならず、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜など複数の選抜方法を実施しており、入学の門戸を大きく広げています。さらに、研究生や科目等履修生という形での受講方法もあります。これらの結果、国籍においても年齢においても多様な人々の学びの場となっています。

幅広い学識や俯瞰的な視野を身につけて自らの専門分野で学問の本質に迫ろうとする、あるいは地域課題に答えていこうとする、チャレンジ精神のある方々を大いに歓迎します。



研究科の目的

わたしたちの研究科は、広く文化と社会の進展に寄与するために、人間の文化と現代社会が直面する学術的・政策的諸課題についての研究を行っています。そして、そこから得られる専門知識の教授とおして、産業界はじめ広く知識基盤社会の中核を多様に担い、文化と社会の持続的発展のために貢献する専門職業人、すなわち中核的専門職業人を育成することを目標としています。

課程の概要

修業年限は2年で、所定の単位を修得し、指導教員のもとで研究の成果を論文等にまとめ、審査と最終試験に合格すると、修士（学術）の学位が授与されます。また、新たに副専攻として「教育プログラム」を受講できる仕組みもあります。これは地域連携的な調査・実習をつうじて実践的知識とスキルの獲得をめざすものです。さらに中学校教諭および高等学校教諭の1種免許状の授与資格を得ている人が、研究科に在学して所定の単位を修得した場合には、それぞれの専修免許状（国語、社会、地理歴史、公民、英語）を取得する資格が得られます。

皆さんの入学を歓迎します

わたしたちの研究科では、人文社会諸科学の研究に必要な基礎的能力を備え、深い関心と熱意を持った方の入学を歓迎します。

在学中には、幅広い視野と深い専門性を身につけ、意欲的、計画的に研究・調査・分析をすすめ、判断力・構想力・想像力等の自己形成に励んでいただきたいと思います。修了後には、知識基盤社会における中核的専門職業人としてこれらの能力を発揮し、文化と社会の持続的発展のために貢献されることを期待しています。

社会科学専攻でも 夜間・休日開講します

研究科の沿革

わたしたちの研究科は、平成3年度に文化構造専攻と言語文化専攻の2専攻体制で発足しました。また、平成6年度に地域政策専攻が、平成12年度にコミュニケーション学専攻が置かれ、4専攻となりました。その後、平成21年度には文化科学専攻と地域政策専攻の2専攻となり、平成26年度に地域政策専攻は社会科学専攻に名称変更しました。文化科学専攻には、人間文化、コミュニケーションの2コースが、社会科学専攻には、法学・行政学、経済学・経営学、地域研究・社会学、地域政策研究（社会人）の4コースが置かれています。

社会人・外国人留学生のために

本研究科では社会人や外国人留学生を積極的に受け入れるべく、入試においては特別選抜を行なっています。また、職業を有する人の修学の便宜を図って、修業年限の延長を認める「長期履修制度」や夜間開講等の仕組みも設けられています（詳しくは11頁参照）。こうした背景のもとで、本研究科は国籍においても年齢においても多様な人々の学びの場となっています。

専攻科目、共通科目、そしてプログラム科目 俯瞰的な視野を身につけ、高度な専門知識を究める

教育プログラムについて

カリキュラムの概要

わたしたちの研究科では、専攻科目により専門分野に関する高度の専門的知識及び能力を習得するだけでなく、幅広い学識と専門分野に関連する基礎的素養を養うため、大学院共通科目、研究科共通科目が開講されています。また、副専攻としての教育プログラムを履修することも出来ます。

履修体系

文化科学専攻・社会科学専攻	
コース（主専攻）注1	プログラム（副専攻）
基盤養成系科目 6 大学院共通科目 (2) 専門基盤科目 (2) 専門基盤演習 (2)	1 コミュニティ・マネージャー養成プログラム 2 人文社会系サステナビリティ学系プログラム (指定専門科目の系統的履修)
研究推進系科目 22 研究支援科目 (2) 専門科目 (6-16) 研究指導科目 (4) 自由科目 (0-10)	教育プログラム 4 持続可能なコミュニティ・デザイン論(2) コミュニティ・インターンシップ(2) もしくは、 サステナビリティ学インターンシップ(2)
キャリア支援系科目 2 外国語 (2) 日本語 (2) 高度情報処理 (2) インターンシップ (2)	
修士論文（または特定課題研究 注2）	
修士（学術）	プログラム修了証

※数字は単位数

注1：コースは「研究・学習の対象領域のまとまり」であり、プログラムは「知識やスキルを身に付ける実践的な体系」であり、研究科では、学生はコースから学ぶ専門知識を材料とし、プログラムから得られる実践的なスキルや方法を駆使して、現代の人間、社会、文化の諸側面にアプローチしていきます。
 注2：映像作品やソフトウェアの開発、行政機関や地域社会との共同企画などをもって、修士論文に代えることができます。

共通科目

大学院共通科目は、茨城大学大学院全体の共通科目であり、幅広い学識と俯瞰的視野及び職業的素養などを涵養します。理系の学生とも一緒に学ぶ画期的なものです。

研究科共通科目は、人文社会科学研究科が開講するもので、専門に近い領域で基盤的な学識や素養を修得します。

科目の区分		授業科目名	
大学院 共通科目	基盤養成科目	地球環境システム論Ⅰ、人間システム基礎論Ⅰ、学術英会話、研究と教育一知の往還をめぐってー、科学と倫理、学術情報リテラシー、国際コミュニケーション基礎、感性数理工学特論、実学的産業特論、原子科学と倫理、霞ヶ浦環境科学概論、食料の安定生産と農学、持続社会システム論Ⅰ、地域サステナビリティ農学概論など	
	基盤養成科目	専門基盤科目	人文社会科学基礎論Ⅰ、人文社会科学基礎論Ⅱ、持続可能なコミュニティ・デザイン論
研究科 共通科目	キャリア支援 科目	外国語	英語講読、英作文、英会話、ドイツ語表現法、フランス語表現法、中国語表現法
		日本語	日本語表現法Ⅰ、日本語表現法Ⅱ
		インターンシップ	インターンシップ、実践的キャリアデザイン論
		高度情報処理	高度情報処理

人文社会科学研究科では、すべての学生が履修するコース（主専攻）に加えて、プログラム（副専攻）もあわせて選択で履修することができます。教育プログラムは、学外機関の協力も得て、幅広い分野の知識を基盤に地域・社会を主体的に構想しデザインできる発想と技術を身に付けてもらい、地域・社会において求められる人材を育てることを目指しています。

プログラム履修に当たっては、2つのプログラムのうち1つを選択し、プログラム特定科目（4単位）とプログラム指定専門科目（10単位）を履修する必要があります。

プログラム履修を終えた学生には、コース履修の修士号に加えて、プログラム「修了認定証」が交付されます。



2つのプログラム

1 コミュニティ・マネージャー養成プログラム

コミュニティ・マネージャーとは、「コミュニティ（共同社会）」をキーワードに地域・社会をテーマとし、新たなライフスタイルや地域のあり方をデザインする発想と技能を身につけ、地域・社会との関係において生活や仕事を主体的に構想し、より良い地域や文化のあり方を自主的に追及し、デザインできる人材です。当プログラムでは、社会起業家育成支援、コミュニティ・ケア・ワーカー育成支援、自治体改革支援などを念頭に置きながら、体系的な授業履修とコミュニティ・インターンシップ（フィールドワーク）を通じて、コミュニティ・マネージャーの養成を目指します。

2 人文社会系サステナビリティ学プログラム

持続可能な社会の構築のために、科学的な態度で論理的に物事をとらえ分析できる能力を有しつつ、人間や社会に対して幅広く洞察ができる人文社会諸科学の知識とセンスを備えた人材を育てることを目指します。主に人間システムおよび社会システムにかかわる広い理解と、特定領域の深い専門性を持ち、国内の地域で、あるいは国際的なフィールドで活躍できる人材の育成を目指します。当プログラムでは、サステナビリティ学系インターンシップを通じて、他研究科の大学院生、あるいは他国の学生たちと文系・理系の枠を超えた共同実践も行います。



文化科学専攻の概要

文化科学専攻は人間文化コースとコミュニケーションコースの2つのコースから成っています。

人間文化コース

人間文化コースには、人間科学分野、歴史・文化遺産分野、文芸・思想分野、言語科学分野の4分野があります。

- 各分野の主な研究領域は、およそ次の通りです。
 - 人間科学分野 心理学、文化人類学
 - 歴史・文化遺産分野 考古学、日本史、ユーラシア史、アジア史、ヨーロッパ近現代史
 - 文芸・思想分野 日本思想史、哲学、美術史、国語・国文学、中国思想・文学、ドイツ文学、フランス文学、イギリス文学、アメリカ文学
 - 言語科学分野 言語学、英語学、英文法論
- 修了後の主な進路は、他大学院博士課程への進学や留学、教員、学芸員、公務員や各種民間企業、NPOなどです。



【主な授業科目】

分野	主な授業科目
人間科学	行動機構論、認知行動論、社会行動論、心理臨床論、生涯発達論、行動文化論、文化人類学、比較文化論
歴史・文化遺産	日本考古学、中国考古学、日本文化史、日本社会文化史、日本社会史、日本近現代史、ユーラシア歴史文化論、アジア歴史文化論
文芸・思想	日本思想史、古典哲学、美術史、日本古典・近代語、日本古典文学、日本近代文学、中国古典言語学、中国近現代言語学、ドイツ言語学、フランス言語学、イギリス言語学、アメリカ言語学
言語科学	記述言語学、対照文法、英語学、英文法論

【教員一覧】

分野	教員名
人間科学	宮崎 章夫、伊藤 哲司、石井 宏典、野口 康彦、松本 光太郎、青山 和夫、本山 宏希、塚原 伸治
歴史・文化遺産	田中 裕、鈴木 敦、高橋 修、添田 仁、佐々木 啓、澁谷 浩一、山田 桂子、森下 嘉之
文芸・思想	伊藤 聡、渡邊 邦夫、藤原 貞朗、櫻井 豪人、堀口 育男、谷口 基、井澤 耕一、西野 由希子、小泉 淳二、神田 大吾、市川 千恵子、小泉 由美子
言語科学	藤井 文男、永井 典子、岡崎 正男、西山 國雄

修了生の声



東北大学大学院文学研究科
博士後期課程2年次
慶野 友祐
【平成26年度修了】

私は、2009年4月に茨城大学に入学し、心理学と出会いました。当時の私は、サークル・バイトに熱心な普通の大学生で、自分が大学院に進学し、研究者への道を志すことなど、思ってもみませんでした。けれども、人生とは不思議なもので、目の前のやりたいこと、やるべきことに、ときには塞翁が馬の心地で臨んでいった結果、今では、東北大学大学院の博士後期課程に在籍し、博士号取得を目指す立場として日々研究に取り組んでいます。

心理学の道を意識するようになったのは、茨城大学大学院、人文科学研究科に在籍していたときのことです。同大学院には、修士課程の2年間、在籍しました。進学のきっかけは、中途半端に終わった卒業論文をきちんと仕上げたい、という程度のものでした。学部時代、あまりまじめに勉強してこなかったせいで、進学当初は苦勞の連続でしたが、それは同時に、たくさんの新たな刺激を受け取り、身につけていく喜びの糧にもなりました。何しろ、授業は基本的に教授とのマンツーマンで進むため(院生の数が少なかったため)、毎回、準備をきちんとしていく必要がありました。また、自身の研究については、学部時代より宮崎 章夫先生にご指導を賜りました。先生は、若輩者であった私にも、分かりやすく丁寧にご指導くださり、私がすべきことをしていない際には、時には厳しく、ご指摘くださいました。先生からは、心理学的な知識以外にも、生きていく上で重要な様々なことを教わったような気がします。

こうして専門的な知識を学び、心理学的なものの考え方に触れていくうちに、心理学の面白さを知り、自身の研究をさらに深めるため、他大学への進学を考えるようになりました。そして、今に至る訳ですが、東北大のような規模の大きな大学院、研究室に来てみると、改めて、茨城大では、綿密な少人数指導体制が整っていたことが実感できます。

今後、茨城大学大学院へ進学しようか迷っている人には、ぜひそうすることをお勧めします。修了後、就職するにせよ、進学するにせよ、この2年間は決して無駄にならないことを約束します。

コミュニケーションコース

コミュニケーションコースは異文化コミュニケーション分野、メディア文化分野の2分野があります。

- グローバル化や高度情報化への対応を意識して、異文化コミュニケーション、国際協力、メディア文化、メディア環境などの理論とあり方を研究するとともに、高度な外国語の能力や実践的な技能を獲得することをめざしています。
- 修了生には、マスコミや情報関連企業、NGO、NPOなど国際協力の第一線で活躍することが期待されています。



【主な授業科目】

分野	主な授業科目
異文化コミュニケーション	異文化理解とコミュニケーション、国際交流実践論、開発課題研究、第二言語習得研究 Language and Culture in English-speaking Countries、Teaching Media English
メディア文化	現代ジャーナリズム論、映像広告論、電子メディア論、映像メディア論、ポピュラー文化論、情報デザイン論、コミュニケーション社会学

【教員一覧】

分野	教員名
異文化コミュニケーション	横溝 環、野田 真里、三輪 徳子、杉本 妙子、シュミット・ロナルド、シヤノン・フレデリック・アラン
メディア文化	古賀 純一郎、高野 光平、菅谷 克行、鈴木 栄幸、加藤 篤志、村上 信夫、猪俣 紀子

院生の声



人文社会科学研究科
文化科学専攻
生田目 智文
【大学院2年次】

私は文化科学専攻異文化コミュニケーション分野 M2在籍の生田目智文と申します。私は、現在水戸市内にある高等学校の現職教員で、2015年4月に社会人特別選抜で入学しました。茨城大学は、昼夜開講制をとり、社会人学生が学びやすい環境が整っていることも入学理由の一つでした。各分野の高度な学術的見識を備えた先生方と、双方向型の活発なやり取りの中で、専門的知識に基づいた論理的思考に触れることができました。更に、異文化コミュニケーション分野には中国、ベトナムなど外国からの留学生も数多く在籍し、年齢や国籍を超えた彼らとの議論を通じ、多くの気づきそして学びを得ました。

今私は現職教員と大学院生という二足の草鞋を履いて生活しています。働きながら学ぶことは、体力や時間的制約の点での苦勞は避けられません。しかし、大学院で自分が学んだ知識や研究していることを、教育の現場で実践できることは二足の草鞋を履くことの強みであると感じています。また、教わる立場を経験することで、生徒の気持ちに配慮した授業展開にも役立っています。困難も少なからずありますが、学びの場におけることに幸せを感じながら、二足の草鞋で頑張っています。

先生のひとこと

文化科学専攻教授
日本近代文学担当
谷口 基

精神のグローバリズムこそを

現在この国には、反文化・反知性主義の颯風が吹き荒れています。単純で感情的な言葉と底の浅い正義だけが称揚され、狭い見識に共感しあう人々から成る共同体は他者の批判をノイズとしかみなし得ない。不可視の存在にささやかな立体感を与え得る文化の力。さまざまな言論に耳澄まし自身をも相対視し得る逞しい知性。これらが抹殺された「精神の鎖国」状態で、一体どんな「グローバリズム」が可能なのでしょう。海や山や国境を越えるものは、困難に屈せず思考し、調査し、分析し、理解しようとする真摯な研究精神にほかなりません。おそれずに精神のグローバリズムを実践してください。



社会科学専攻の概要

法学・行政学コース

- 現在我々が直面している社会的課題を政策的思考能力と法的思考能力(リーガルマインド)をもって実践的に解決していく人材の育成を目指しています。修了後は、行政・民間企業・NPOの職員として調査分析能力や企画立案能力を発揮する、あるいは司法書士・税理士等として活躍するなど、多様な進路が考えられます。

主な授業科目	憲法研究	民法研究A	民法研究B	刑法研究	商法・経済法研究	社会保障法研究	労働法研究
担当教員	伊藤 純子	高橋 大輔	石井 智弥	陶山 二郎	荒木 雅也	土屋 和子	鈴木 俊晴
主な授業科目	行政法研究	比較法研究	国際法研究	行政学研究	公共政策論研究	地方政治論研究	公共哲学研究
担当教員	今川 奈緒	古屋 等	付 月	佐川 泰弘	井上 拓也	馬渡 剛	乙部 延剛



社会科学専攻准教授
商法・経済法研究
荒木 雅也

入学者の様々なニーズに対応

法学・行政学コースには、研究者志望、法律専門職志望、公務員志望など、様々な目標や思いを持つ院生が入学しています。同コースは、法学、政治学の各専門分野の教員を多数擁していますので、入学者の様々なニーズにこたえることができます。皆さんの目標実現に協力することができればと思っています。教員と院生はとても仲良く、良い雰囲気です。

経済学・経営学コース

- 複雑でグローバル化している経済社会を、経済・経営・会計の専門性に基づいて把握しつつ、多角的な視野と専門的知見を修得して問題解決に努める人材養成を目指しています。修了生には他大学院博士課程への進学、税理士、公務員や教員、金融・流通・メーカーなどの財務・経理・人事・営業・企画部門などでの活躍が期待されています。

主な授業科目	理論経済学研究	経済統計研究	経済政策研究	財政学研究	金融論研究	労働経済論研究	マーケティング論研究
担当教員	石垣 建志	田中 泉	後藤 玲子	兪 和	内田 聡	清山 玲	今村 一真
主な授業科目	経営学研究	監査論研究	アジア経済論研究	経済史研究			
担当教員	牧 良明	高井 美智明	長田 華子	宮崎 忠恒			

院生の声



人文科学研究科
社会科学専攻
田中 玲子
【大学院2年次】

私は社会人院生として、2016年4月に茨城大学大学院(人文科学研究科/社会科学専攻)に入学しました。現在は、国際政治学専攻の蓮井誠一郎先生のもとで県内の国際協力NGOと連携した持続可能な開発のための教育の展開について研究しています。

入学以前は、学部生時代に国際協力と文化人類学を専攻し、卒業後に青年海外協力隊に参加した経験を活かして、JICA国際協力推進員として茨城県内の国際協力や国際理解教育を推進する仕事に携わってきました。仕事を通して、県内、特に水戸以北において“Think globally, Act locally”としてのグローバルな視点の導入と、そのためのネットワークの必要性を感じ、そのネットワークづくりに取り組んできました。

その取り組みを通して、県内には国際協力NGOの方々をはじめ、グローバルかつ長期的な知見を有した方々がたくさんいることを知りました。そのため、今後、地域にいるグローバルな知見を有した方々と連携した学びを発展させていきたいと考え、蓮井先生はじめ、人文科学研究科の先生方にご指導をいただきながら実践的な研究を進めています。

また同研究科には、「人文社会系サステナビリティ学プログラム」と「サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)共同教育プログラム」というプログラムがあります。これらはアクティブラーニングがベースとなっており、分野を越えた理系や農学系の大学院生、東京大学をはじめとした他大学の大学院生、さらに国際実践教育演習では国境を越えてタイの学生と共に学びながら研究を深めることも出来ます。これまでの学びや仕事での経験を活かしながら、茨城に根ざしつつ、よりグローバルに、より俯瞰的に学びを得られることも同研究科の魅力だと思います。また私は長期履修制度を活用していることで、仕事をしながらも無理なく研究を進めることができています。



社会科学専攻教授
経済政策研究
後藤 玲子

より善い経済社会を実現するための方法論を学ぶ

おそらくは誰も、「いまの経済社会をより善くしたい」と思っていることでしょう。では、「より善い」とは、いかなる状態のことを言うのでしょうか。都会に住む高齢者にとって「より善い」状態が、地方でこれから生を享ける将来世代にとっても「より善い」とは限りません。地域社会に暮らす多様な人々にとって可能かつ最善の経済政策を提示するには、経済現象や社会問題を、感覚ではなく科学的な根拠に基づいて論理的に分析することが必要になります。

社会科学専攻には、社会諸科学に精通する専門スタッフが揃っており、さまざまな地域の政策について、多面的に学ぶことができます。専門的な分析視角や分析手法を修得するのは大変ですが、経済社会をより善くするための方法論を身につけることができるならば、二年間を費やす価値は十分にあると思いませんか?是非、共に切磋琢磨しましょう。

地域研究・社会学コース

- 社会学、政治学、地理学、歴史学の分析手法あるいは複数分野の手法で、グローバルな観点から「地域」を研究し、「地域」で対応が求められている諸問題の解決方法を探求します。修了後は、他大学院博士課程へ進学することや、国内外の行政、企業、NPO等の非営利組織等において、環境・福祉・教育・観光・市民協働といった課題でリーダーシップと専門能力を発揮できる人材としての活躍が期待されます。

主な授業科目	国際政治学研究	アジア政治論研究	アジア社会論研究	ヨーロッパ社会史研究	社会地理学研究	経済地理学研究	家族社会学研究
担当教員	蓮井 誠一郎	木村 昌孝	金光 男	中田 潤	葉 倩瑋	田中 耕市	渋谷 敦司
主な授業科目	地域社会論研究	環境社会学研究	生活保障論研究	社会調査法研究	地誌学研究		
担当教員	星 純子	原口 弥生	富江 直子	寺地 幹人	小原 規宏		

修了生の声



人文科学研究科
社会科学専攻
和氣 原
【平成26年度修了】

私は、平成25年に茨城大学人文学部を卒業し、同年に茨城大学大学院(人文科学研究科社会科学専攻)に進学しました。大学院では、フランスの国会をテーマにして研究を行いました。

人文科学研究科社会科学専攻が持つ最も大きな魅力は、自分が専門とする研究分野ではない分野の研究を行っている方々と出会い、交流できることです。私は、人文科学研究科社会科学専攻の中の法学・行政学コースに所属していますが、同じ専攻内に設置されている経済学・経営学コース、地域研究・社会学コース所属の方々と意見交換を行い、それぞれの分野の知見に接することは、とても有意義であることを日々実感しつつ、大学院生活を送りました。社会人の大学院生や、海外からの留学生との触れ合いも多く、自分の視野を、自分の研究領域にとどまらせることなく、より広げることができるのが人文科学研究科社会科学専攻です。

人文科学研究科社会科学専攻には、「地域」や「地元」についての研究を行っている教員や大学院生が多数在籍しています。こうした陣容を持つ人文科学研究科社会科学専攻で、「地域」や「地元」について考えたり活動したりすることができるのは、非常に魅力的であると思います。

大学生時代での学びをより一層深めたい、社会人としての経験を学問に活かしたいという方々が、一人でも多く有意義な大学院生活を送られることを願います。



社会科学専攻教授
環境社会学研究
原口 弥生

環境・福祉・教育・観光・市民協働などについて

地域社会は、さまざまな問題が複合的に現れてくる「課題の最前線」であると同時に、さまざまな主体がその地域の歴史に根ざしつつ、また自然風土を活かしながら新しい取り組みを実践する「課題解決の最前線」です。社会学、政治学、地理学、歴史学といった方法論を学びつつ、環境・福祉・教育・観光・市民協働などのテーマについて、一緒にフィールドを歩き、また議論してみませんか?



秋入試と春入試 1年に2回のチャンスがあります

入試情報

入試は「秋入試」と「春入試」の2回実施されます。
入試には、一般選抜のほか、社会人と外国人留学生に向けた特別選抜があります。

募集人員

専攻	募集人員			社会人特別選抜、 外国人留学生 特別選抜を含む
	合計	内訳		
		秋入試	春入試	
文化科学専攻	13名	9名	4名	
社会科学専攻	12名	5名	7名	

出願期間

秋入試	平成29年8月17日(木)～平成29年8月23日(水)
春入試	平成30年1月5日(金)～平成30年1月11日(木)

試験日時

【秋入試】

平成29年10月14日(土)			
専攻	試験区分	試験科目及び時間割	
文化科学専攻	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	筆記試験(専門科目) 10:00～12:00	口述試験 14:00～
社会科学専攻	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	筆記試験(専門科目) 10:00～11:30 ※地域政策研究(社会人)コース 小論文 10:00～11:30	

【春入試】

平成30年2月10日(土)			
専攻	試験区分	試験科目及び時間割	
文化科学専攻	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	筆記試験(小論文) 10:00～12:00	口述試験 14:00～
社会科学専攻	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	筆記試験(専門科目) 10:00～11:30 ※地域政策研究(社会人)コース 小論文 10:00～11:30	

注1) 筆記試験(専門科目、小論文)の問題は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜によって異なることがあります。
注2) 文化科学専攻コミュニケーションコースの口述試験においては、一般選抜、特別選抜を問わず、英語での面接を行なう場合があります。
注3) 社会科学専攻の春入試では、審査付の卒業論文等の提出をもって筆記試験を免除する制度があります。詳細は募集要項で確認して下さい。

試験場

茨城大学人文社会科学部(茨城県水戸市文京2-1-1)

合格者発表

秋入試	平成29年10月27日(金)13時頃
春入試	平成30年2月23日(金)13時頃

働きながら学ぼうとする人を支援する制度

わたしたちの研究科には、社会人、特に職業と学業を両立させようと思っている人を支援する制度があります。そのひとつとして、長期履修制度を設けています。この制度は、職業を有している等、修学に困難を抱えている学生に対して、標準修業年限(2年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができるものです。長期履修学生として認められた場合、授業料は、標準修業年限分の授業料総額を、認められた一定の期間に学期毎に均分して支払うことになります。

もう一つは、授業や研究指導などの教育を、社会人で入学後も勤務を継続する場合など、教育上特別の必要があると認められる場合、夜間など学生の都合に合わせた時間または時期に行うことができる制度です。(大学院設置基準第14条の特例)

たとえば、文化科学専攻コミュニケーションコースでは、すでに授業を夜間に開講しています。社会科学専攻では、平成28年度から履修希望者に夜間・休日*にも開講しています。

また、社会科学専攻の地域政策研究(社会人)コースでは、昼間と夜間・休日*に開講される授業等を履修することで、1年間で修士課程修了に必要な単位を修得し、修了することもできます。

※夜間・休日の授業等については、指導教員又は、人文社会科学研究科に確認が必要となります。

入学料・授業料

入学手続きの際納付する入学料及び授業料は、次のとおりです。

入学料 282,000円
授業料 267,900円 (年額 535,800円)

(注1) 入学手続きまでに入学料及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び授業料が適用されます。

(注2) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

入学料については免除及び徴収猶予制度、また、授業料については免除及び徴収猶予並びに月割分納制度があります。詳細は茨城大学学務部学生支援課にお問い合わせください。

奨学金

日本学生支援機構による奨学金制度が主であり、無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金の2種類があります。日本学生支援機構の奨学金は、本人の申請に基づき、日本学生支援機構奨学規程により選考の上、奨学生に採用されると貸与されます。貸与月額は第一種奨学金は50,000円・88,000円から選択、第二種奨学金は50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円の中から選択することができます。

また、日本学生支援機構大学院第一種奨学生で、在学時に特に優れた業績を挙げた者として機構が認定した場合、貸与期間終了時に学資金の全部または一部の返還が免除されます。詳細は、茨城大学学務部学生支援課にお問い合わせください。

過去5年の修了生の主な進路

茨城県庁、水戸市役所、水戸市埋蔵文化財センター、日立市郷土博物館学芸員、常陸大宮市役所、那珂市役所、笠間市役所、古河市役所、茨城町役場、大洗町役場、山梨県教育委員会、函館市役所(北海道)、一関市役所(岩手県)、棚倉町役場(福島県)、茂木町役場(栃木県)、茨城県高校教員、茨城県中学校教員、茨城県小学校教員、山形県高校教員、茨城大学、フエ外国語大学、陸上自衛隊、(財)日本自動車研究所、(独)高齢障害者雇用支援機構、茨城県社会福祉協議会

日立製作所、常陽銀行、茨城新聞社、福島テレビ、東京セキスイハイム、ヤマダ電機、日立ライフ、日立保険サービス、KSK構造診断研究所、マネックスグループ、春秋社



【アクセス】

JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗車、「茨大前」で下車。
※乗車時間は約30分ですが、交通渋滞により40分以上かかる場合があります。

またはJR赤塚駅(北口)バスターミナルから茨城交通バス「茨大前行(曙町経由)」に乗車、「茨大正門前」で下車。

茨城大学大学院 人文社会科学研究科

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

電話 029-228-8102 FAX 029-228-8196

URL <http://www.hum.ibaraki.ac.jp/graduate-school/>